



俄僑文庫

七十

蓮句集

5

1139

60





石動 短歌行

方照

麻の世活もあはれはの事さよひ
 木槿にさへてはなれ神地 里の
 月のさるるふみ脚しへて 麻徒
 舞 舞ししはなれはなれ 史西
 いふほふよふはなれはなれ 可者
 まのむらさきのまよふはなれ 眉永

群下

後宮の供よの末にぬらして
修しにけりて合ちあそび
乾鼓のまはり言ふと年そつて
山の行かぬのれが辨 友 徒
吹かぬとさ深草のむの孫 泉
= 敷よぬらしてきり新子に
腹とさぬらしてさぬらして
世父様 のけりてあそびて
お 登

ゆきと月とて清はのさか 妙 徒
さきとて供のむのさか 着
川ぬとけりてかゝりて 白 首
馬とてけりて新言の魂 泉
さかぬらしてはぬらして月とてさか ぬ
橋とてぬらしてさかぬらして 登
さかぬらしてさかぬらして 泉
さかぬらしてさかぬらして 首

初志

も風の... ねの月巴...
...の...と...
...の月...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...

初志

...の...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...
...の...

非下

七女の着ふさしきり一茶のむき本
さき菊のさきさきり一水と林
菊とさきさきりト也や又三十日
はさきさきのさきさきり今も
菊の落不帯りさきさきり
雲がくれてさきさきり信人の影さき
其ん

井波

七さのや内さきさきりさきさきり
二ささきりさきさきり
鷹のさきさきり松さきさきり林のさき
萩人

富山 短歌行

七ささきりさきさきりさきさきり
二ささきりさきさきり
鷹のさきさきり松さきさきり林のさき
萩人

井波

此の邊をまゝ浦をやら
 赤石と申すは今宮と申すは
 船は横手にまじりて
 日やけくろくもくもく
 あーあゝのえくもくもく
 朝日と申すは東と申すは西
 本流と申すはくもくもく
 美と申すはくもくもく

二

被りたる 雛の 嫁入
 いさよおのくもくもく
 けいこくもくもく
 偏しつゝお仲氣をよ
 言はしおもくもく
 ちいさくもくもく
 抱きかきくもくもく
 ちいさくもくもく

7

自憎ふ山と雲と 仁草

新守とに名も 水に 川

空ももあつて 雲く 水

ついでしては 雲く 雲

秋葉に葉の 雲く 許 葉

同前 短歌

お佐木や菊の 市の中 一席

深下と松も 雲く 雲

又長信の 月も 雲く 一酒

入竿の 原も 雲く 白推

あまの 雲く 雲く 雲

名焼く 雲く 雲く 雲

初のも 雲く 雲く 雲

酒

扉下

平...
 抄...
 而...
 心...
 教...
 一...
 撰...
 陽...
 席

大...
 概...
 以...
 い...
 む...
 ね...
 一...
 娘...
 信

排下

二階のつらやまのむらり 咲
まらり 暮らしてゆくやまのむらり 花
傳のつらやまのむらり 有
まらり 暮らしてゆくやまのむらり 一
むらり 暮らしてゆくやまのむらり 二

備前 短歌

あまのつらやまのむらり 指山
あまのつらやまのむらり 里
あまのつらやまのむらり 知十
あまのつらやまのむらり 曙窓
あまのつらやまのむらり 魯法
あまのつらやまのむらり 蚊呂
あまのつらやまのむらり 休水
あまのつらやまのむらり 野雲

備前

十

婦 年 七 十 一 年 乙 未 年 閏 五 月 南
山 之 野 原 之 邊 也 櫻 花 山
之 野 原 之 邊 也 櫻 花 山
親 王 之 宮 也 櫻 花 山 十
二
法 中 一 町 一 町 一 町 一 町 一 町
夕 日 の 海 邊 の 邊 也 櫻 花 山
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
水 邊 之 邊 也 櫻 花 山 十

お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十
お ぼ け 山 之 邊 也 櫻 花 山 十

名録

確のふしむるふしむるふしむるふしむる 野雲
 けい枝の懐くもわ 神味もふ 知十
 高きふしむるふしむるふしむるふしむる 曙窓
 ふしむるの月ふしむるふしむるふしむるの月 魯江
 赤いふしむるふしむるふしむるの雲し 指山
 ふしむるふしむるふしむるふしむる 山形 休水

ふしむるふしむるふしむるふしむる 鳥高
 ふしむるふしむるふしむるふしむる 鼓呂

魚津 短歌行

倚

けい枝の若くもふしむるふしむるふしむる 倚
 けい枝の懐くもわ 横しふしむる 里
 初鮭ふしむるふしむるの市ふしむる 田園

あゝ〜と〜と〜と〜と〜と
 清くやうき十神の内うら
 こ〜と〜と〜と〜と〜と
 明ら〜と〜と〜と〜と〜と
 様へ〜と〜と〜と〜と〜と

子 布 内 丸
 子 布 内 丸

同利 短きり

〜と〜と〜と〜と〜と
 柳〜と〜と〜と〜と〜と
 二〜と〜と〜と〜と〜と
 似〜と〜と〜と〜と〜と
 漸〜と〜と〜と〜と〜と
 沾〜と〜と〜と〜と〜と
 氣〜と〜と〜と〜と〜と
 る〜と〜と〜と〜と〜と

雨打 里石 方板 拾下 餅餅 意蝶 禮青 尊之

各録

浮舟と引出くさる書に
 多列やあつたあつた
 念仏のあつた中へ
 夕をや何れかある
 養を七か卦へか
 旅人七かへは
 柳 子 固快

ねつ書か
 入か
 海
 鷗のあつた
 夢
 子のあつた
 山
 谷

徑遊
 細長
 大い
 真味
 未希
 方敷
 強味
 美竹

非下

其

心ゆくもあはれなるうらみ
折ふまゝの心あはれなる
うらみゆくもあはれなる
引算ふまゝの心あはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる

生地 短哥行

夕日たそがれや 時あふの條下地
山あふりゆく 夢に 夢 夢
いほもあふりゆく 夢に 夢 夢
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる
うらみゆくもあはれなる

非下

五

もよよあれあつるあれ中
徳を祝ふ所の苗代又

岩録

さや中羽わくつらさる
さくつらつらあつるあつる
さあれあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる

さや中羽わくつらさる

洵 短言り

あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつる

暮不ききし月の新き
 五條 内系にたるる色の色と
 曾六 小信よきしとて庭玉
 鴻羽 ころもれ ころもれ
 周路 今も待たば城のまを
 渭水 菊は合と かくり
 未林 もの碎 けりしと
 けりしと けりしと
 河原

美買とわらうる
 けりしと けりしと
 宇 来し入院し書よ
 ね 心のけりしと
 今 けりしと けりしと
 車 夕月七日病おらり
 けりしと けりしと
 梅 けりしと けりしと
 けりしと けりしと
 けりしと けりしと

鶯好もくも念夜の下こけ林
 松高もくも名のきくあしき水
 町並ともあけてむの面を費凍
 柳の隣もくもねしきりやい丁

名録

麦苗のねぼりもあつ葉山子多
 五字

鳴ぬりも尾もほきりあ柳も五株
 夕顔や髪結もあつあつ之周路
 ようきもあつねねもあつあつ之
 いふ葉のあつあつあつあつ之月素林
 十たねや粒あつあつあつあつ之
 海あつあつあつあつあつあつ之
 大根川もあつあつあつあつ之河涼
 掛るあつあつあつあつあつ之

新よも国麻いりくきき森山 渭水
 茶のひと焙がよりきり新白川 洗耳
 磯傳よ信のひとくく小暮久 湖江
 十月の小店おとす梅のひと 楚直
 と娘のよふれはゆすや大根川 鴻羽
 酒き中ねの化粧いし 雲のお 其板

越後

糸魚川 短哥行

一王のさきからゆかきり大根川

九餅

一さし人のまのじりりりりお 里お

掛あきりきりりりりりりりり 浜藍

市のあきりのりりりりりりり 空お

瓶の本の下ききりりりりりりり 荻陽

月の跡のあきりりりりりりり 下流

新古今のふれあひをいふに 義方
著書の記しに凡そと云ふに
煉のふれあひをいふに 葉千
姫子の結し 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七

勸学のふれあひをいふに 義方
著書の記しに凡そと云ふに
煉のふれあひをいふに 葉千
姫子の結し 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七
こゝろにいふに 栞七 藤七

禁

ひよりのねあていしむの中
陽
山のさきのゆかりを
筑

右録

さよふいとにさしきふ女房の
九轉
嵐のしきりしき柳ふ
巻陽
振返るねさるるさね衣ふ
法藍

一何ふあしー丁やちやま
隠字
頃頃のまきりやまきり
里の
まきのむやまきり
ト
枕京の二交の急あり
梅ふ
義方
深はくさく山くさく
一
宿の月
文章

諸国直出

文心集

諸国遠近 文通部

洛陽

い里よ女の字なるあり菊の花 吾仲
連翹もすもていといと咲より 危字
娘もていづる 菊の花はふ 山只
柳のていなる 女中の月さる子 未六

近江

茶屋のあはらのきやとふ月 膳本 酒屋
はるやりのあはらのし 未六 昌房
十二はるきや 大は 桂ふ 幸徳
茶屋のあはらのきやとふ月 膳本 酒屋

但馬

一葉もていづる 山口 仙飲
名のふれふ茶に咲や茶摘時 未六

石見

夕陽のさし下りて
 まれま 大田 葉之
 りたる人ふあてて
 田植ま 和凡
 糶等よ 胃はかき
 廣らふ 考天

仔細

夕涼の夕顔 山田
 夕涼の夕顔 中
 夕涼の夕顔 若士
 夕涼の夕顔 柳如
 夕涼の夕顔 果葉

研の隈 後
 研の隈 午御
 一 山
 研の隈 河百
 研の隈 借柳
 研の隈 仙行
 研の隈 龍角
 研の隈 杖丈

二五

さよふかき^{名取}さよふかき^里

風やふく^{名取}さよふかき^里

尾張

名月やあのおのこ^{名取}

さよふかき^{名取}さよふかき^里

世のふよよのふか^{名取}

後より^{名取}さよふかき^里

三

さよふかき^{名取}さよふかき^里

さよふかき^{名取}さよふかき^里

さよふかき^{名取}さよふかき^里

さよふかき^{名取}さよふかき^里

尾張

さよふかき^{名取}さよふかき^里

さよふかき^{名取}さよふかき^里

さよふかき^{名取}さよふかき^里

三

三

しつゝも舞も侍も 移つたに 浦柳

越後

まじりやまらぬとりの 後磨 新撰 慈行

あまのあしあくる屋 侍 とふ 一字

あまのあまふし 侍 日のうらみ 浮舟

あまのあまふし 侍 のあまふし 浮舟

離の月よとりの 浮舟 侍 浮舟

浮舟の胞衣より 蓮のうらみ 侍 浮舟

あれとや遊美く 侍 浮舟 月ね 小河

七羽

麻のあまふし 侍 浮舟 猫の意 七

浮舟のあまふし 侍 浮舟 浮舟

あまのあまふし 侍 浮舟 浮舟

あまのあまふし 侍 浮舟 浮舟

あまのあまふし 侍 浮舟 浮舟

あまのあまふし 侍 浮舟 浮舟

まじりのまじりやぬもまじり田村 十知

又通區部

お杖の垢を紙やらり一葉 血江村 九角

まのれやま 節うち 短子のとま 濃長 濃長 除け

町へ来たてれうち吹く 懺ふ 伊勢四市 王之

短牛角やうちる 木魚ふ 越前吉野 江西

あけよまじりまじりまじりまじり 表濃 表濃 水尺

本松のほねもまじりや 藤れあ 美濃麻生 松寸

うほくーいれとまじりや 柳の市 同神戸 本子仙

まじりのひやくねた 友の心 同新加納 興条

鷲の首くもてや 高小ほを地 同三橋 堀川

二子こことひほくーいれ ぼの月 同西島 袖月

ふさく 鷲もねく 糸はく 同 水也

戯作とるくまじり 風のまじり 同僧 湖舟

まじりまじりまじりまじりまじり 信濃 信濃 未格

その跡よりなるおまゝ

おまゝ山
遊魚

薫くくや之破斗居のほろか減

義農伴尾
越水

し〜し〜に山と海との邊

同
洞栢

し〜し〜縁よりやろくけ摘

同
足己

照ゆのするのなや梅

同
梅家

夕十和や柳よまのまのん

同
雪市

世に伝へるもの種

尾羽屋
馬六

大い〜月の縣や流

同
常和

山伝と見し〜

越後高田
巻耳

〜〜の〜〜

同
貞虎

秋のみのり〜

加賀金沢
山濤

享保廿一年四月廿五日

享保町三条

橋本信長衛板

帰心

何尾亭秋立

弱の街と静て中葦布にさゆ一汁 喜平

ふしの物もももらぬ 結衣 里紅

ふかしの化粧いふ目さゆて 白柱

ふかしの物ももらぬ



